

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901092		
法人名	医療法人社団直江クリニック		
事業所名	グループホームゆうあい(ゆう)		
所在地	旭川市神居9条8丁目1-11		
自己評価作成日	平成30年11月13日	評価結果市町村受理日	平成30年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901092-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成30年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との連携においては、「丘の下カフェ」を開催しています。今年度は、地域運営推進会議も終了後開催しました。研修としては、昨年度も開催した、神居・江丹別地域包括支援センターより講師を招いた、高齢者虐待、今年度は、身体拘束の勉強会を開催しました。引き続き、学んでいきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然と調和のとれた広々とした環境の中で快適に生活できる住空間と適切な医療管理が受けられる母体医療法人が運営する平成14年10月開設の木造モルタル平屋建て(耐火建築)2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。
普段は、ご自宅や施設の介護を受けて生活している方が仕事を通して活躍し、主役となれる場所を提供する「手づくりレストラン」開催への協力、認知症の人や家族、地域住民、介護で働く人が集う事業所独自の「丘の下カフェ ゆうあい」の開催、同一地域内の同業者との複数連携の合同研修会の開催や多職種連携事業での研修会開催など地域のサービスの質の向上や認知症の人への理解や啓発に取り組み、地域の中心的役割りを担っています。また、毎月開催される認知症カフェへの参加や看護学校生徒の実習の受け入れ、町内会の行事参加など地域の人々との交流に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)		1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)		1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)		1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1 ほぼ全ての利用者が				
		○	2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は休憩室等に掲示し、職員全員で共有できるようにしている。新しい職員も増えているので、周知していきたい。	事業所独自の理念をつくり見易い場所に掲示して、日常業務や全体会議等を通じて職員間で共有し、その実践につなげている。また、厳しい自己評価となっているが、さらなる向上を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、月一回の認知症カフェへの参加、事業所でも「丘の下カフェ」開催しました。	「手づくりレストラン」開催への協力、認知症の人や家族、地域住民、介護で働く人が集う事業所独自の「丘の下カフェ ゆうあい」の開催、多職種連携事業での研修会開催など地域のサービス向上に取り組んでいる。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつ情報を発信はしているが、十分ではない。事業所の見学等で、実践しているところを見ていただきたい。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営会議は、2か月に1回開催している。サービス向上には、十分ではないので、活かしていきたい。	運営推進会議を定期的に開催して、事業所の取り組み状況や日常生活の様子等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方には、ご協力していただいているので、今後は、連絡を密にできるように努めていきたい。	認知症カフェへの参加や地域の困りごとへの相談、日常業務を通じて市、包括支援センターと情報交換や相談等を行いながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で情報を共有し、身体拘束について正しく理解していきたい。引き続き適切な対応をしていきたい。	複数連携事業、他職種連携等の外部研修会参加、キャリアパス研修会を通じて、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	今後は、職員間で身体拘束に関しての問題点、対応等について共有できるよう研修会開催など検討しているので、その実践に期待します。
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隔月の全体会議で、包括職員の方の勉強会開催している。今後も職員間で周知していきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体の職員で学ぶ機会が少ないので、今後は研修の機会をもっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等においては、利用者、家族に対し十分に説明を行っているつもりである。誤解のないように取り組んでいきたい。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、苦情受付も設置しているが、意見が出しやすい環境を作りたい。。問題点があれば、共有していきたい。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置してその機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度は、職員面談を行っている。今後も、必要時行っていきたい。また、意見等を反映させていきたい。	個人面談の実施や全体会議、カンファレンス等を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見やアイデア等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年定期的に取り組んで入るが、状況的にはまだ不十分であると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前職が未経験な職員が入職するため、研修の機会は作っていきたい。まだ、不十分である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	合同研修会を開催している。圏域で開催されている研修会、交流会には参加している。ただし、全職員ではないので、今後は全職員を参加させたい。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係作りに努めているが、分とは言えない面が多い。もっとひとり一人関わる機会を増やしていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の面談においては、自宅等を訪問し、出来る限りの情報が集まるような努力はしている。もっと情報収集し、職員に周知していきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時には、本人、家族、事業所と相談し、支援の見極めに努めているが、不十分である。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どちらかと云うと、職員の都合になっている時もみられる。十分ではない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、定期的にお便り等で連携を取って対応している。あまり面会に来られる機会が少ない方もいるので、情報を共有していきたい。まだ、不十分であると思われる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院以外で外出する機会が減っている。現在の状況に応じた対応が必要であると思われる。	散歩や買い物、毎月開催の認知症カフェに出かけたり、町内の行事参加など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が主体の業務になっている面が多く見られる。今後、関わりについて職員間で考えていきたい。改善していきたい。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、対応できるようには、努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い暮らし方の希望、意向の把握に努めているが、本人本位とはいえない。検討が不十分であると思われる。	一人ひとりの暮らし方の希望や意向を把握して職員間で情報を共有し、本人本位に検討している。また、意思表示が難しい方についても検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、経過等の把握に努めているが、十分に活かされていないと思われる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めているが十分ではない。今後、ミニカンファレンス等を開催しているので、改善していきたい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミニカンファレンスを開催し、情報の共有に努めていきたい。介護計画については、勉強していく予定である。	本人・家族の意見や要望、医師及び看護師からの指導や助言、カンファレンスやミーティング等を通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、介護計画の情報の共有を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有が十分ではない。ケアの面でも活かされていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所としては、多機能化を目指してはいるが、十分に組み立ててはいない。事業所としての役割等を確認していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めている。地域包括支援センターと連携し支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する病院を受診している。ただし、対応については、不十分であると思われる。	往診や通院への支援、日常の健康管理を通じて適切な医療を受けられるようにしている。受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。また、個別の対応について検討している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が不在になるので、医療機関の看護師、薬局等と連携していきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めており、関係作りをおこなっている。今後は、医療機関の看護師とも連携し対応していきたい。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、家族と話すことはあるが、共有できていない。終末期の取り組みについて、学んでいきたい。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を検討している。また、職員間の共有方法について検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新職員もいるので、定期的に開催し、心肺蘇生の勉強会開催、急変時の情報の共有に努めていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は、課題となっている。今年度訓練をおこなっていない。町内会との連携について、今後も要請していきたい。	急変時の対応方法、心肺蘇生についての研修会開催、自然災害(地すべり等)を想定した訓練を行っている。また、今年度中に避難訓練の実施を予定している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方の、人格を尊重し、プライバシーの保護に努めているが、十分ではない面もみられる。言葉かけについても気を付けていきたい。	外部研修参加やミーティング等を通じて、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の周知に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	年々自己決定できなくなってきたが、もう一度対応について考えていきたい。本人の思いについて考えていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員のペースになっている場面の方が多くも見られる。希望にそった支援を考えていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にそうよう考えて支援しているが、職員側の判断の時も見られる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの把握に努めているが、十分ではない。一緒に出来なくなってきている面もあるが、出来る事を考えていきたい。	一人ひとりの好みや力を見極めながら食事の準備や後片付け等をできるよう支援に努めている。また、個々に沿った支援の方法を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量については、一人ひとり考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの介助、声かけを行っている。ただし、ひとり一人には、十分対応できていないので、対応していきたい口腔ケアの重要性について学びたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、習慣の把握には排泄表等でチェックし、努めている。自立に向けた支援については、十分ではない。	ADLの低下で自立に向けた支援方法を検討している。また、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導等でトイレでの排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、把握できるように努めているが、個々の対応は十分ではない。研修会等で、対応について学んでいきたい。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴を楽しめるよう支援しているが、入浴日を設定しており、十分ではない。検討していきたい。	一人ひとりの希望やタイミングに応じて入浴支援をしている。また、入浴日を設定しているが入浴が楽しみなものになるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況について、家族等と連絡しており、状況に応じた取り組みを行っている。安眠できるような支援を考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が不在となったため、各病院看護師、薬局等との情報を、職員間で共有していきたい。服薬についての勉強会を行いたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の業務の都合でやれる日、やれない日があり、十分とはいえない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は行っているが、家族・地域の方々とは連携は出来ていない。情報共有し、連携していきたい。	外出の際には家族や地域の協力が得られるよう連携体制構築を模索している。また、一人ひとりの力やその日の希望に沿って、地域の行事参加など戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に預っており、本人が使用する機会は少ない。検討していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡を取る事が出来る方には、可能な限り支援しているが、十分ではない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	取り組んでいるが、工夫はあまり出来てないと思われる。季節感、生活感が足りないと思われる。どのような事ができるか、考えていきたい。	厳しい自己評価だが、周辺環境は新緑や紅葉が感じられたり、共用空間には、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾り付けで生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いにできる居場所は、十分に出来ていないので、検討して作っていきたい。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面を考え、ホーム側の都合になっている。家族からの情報も十分ではないので、共有し居心地よく過ごせる工夫をしたい。	居室には、安全に配慮しながら使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりに努めているが十分ではない面も見られる。今後も、引き続き状況をみて設置していきたい。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901092		
法人名	医療法人社団直江クリニック		
事業所名	グループホームゆうあい(あい)		
所在地	旭川市神居9条8丁目1-11		
自己評価作成日	平成30年11月12日	評価結果市町村受理日	平成30年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901092-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は9月に北海道胆振東部地震があり、改めて災害対策・危機管理の重要性を痛感しております。事業所としては、神居中央地区市民委員会主催で行われている認知症カフェ「カフェ・オアシス」への参加、7月には「丘の下カフェ ゆうあい」の開催し地域との連携をはかっています。職員それぞれがやりがいを持ち、チームとして連携していく事の重要性も改めて感じています。事業所単独のみでは出来る事に限界がある為、今後も地域の方々や他事業所・医療機関と連携・協働をより一層深めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・休憩室に理念は掲示し、職員全員で共有できるようにしている。ユニット会議でも折を見て確認している。今後、ユニットケア理念を作成し理念の更なる理解・実践につなげたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月おきの地域運営推進会議の開催・認知症カフェの開催や参加等少しずつ増えているが交流については、十分とは言えない。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には、まだまだ活かされていないと感じる。今後も情報を発信する事に努めたい。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域運営会議を開催している。継続して開催していきたい。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者との連絡をする機会が少ない。今後は連絡を密にできるように努めていきたい。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準を理解し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠もしない様心掛けている		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などを通して学ぶ機会はあるが参加できるスタッフが少ない。会議を通して高齢者虐待防止について学ぶ機会を設けているが更なる理解が必要と思われる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等を通して学ぶ機会はあるが、活用するまでは至っていない。更に理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等においては、利用者、家族に対し十分に説明を行っている。今後も取り組んでいきたい。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に御意見や御意向をお伺いしたり、意見箱や苦情受付も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は日々の勤務帯や会議で意見や提案を聞く機会を設けている。また、状況に応じ、個人面談を行い職員から意見を聞く機会も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年見直しを行っているが、不十分な状況が続いている。もっと整備が必要であると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	慢性的に職員数が不足しているため、研修を受ける機会が不十分。職員を早急に確保し研修に参加できる機会を設けたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	複数事業所による合同研修会の開催、及び神居・江丹別地域包括支援センター圏域のグループホーム交流会、多職種連携の研修会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早期の段階で関係を築ける様努めているが、十分と言えない部分もある。少しでもご本人のお話を傾聴し安心できる関係づくりを築ける様心掛けたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に自宅等を訪問し、情報が集まるよう努めている。入所後も聞き取りをし、アセスメントしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で聞き取りを行い、他のサービス利用の必要性があれば提案している。今後も対応に努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ない事を見極め、一方的にならないようにはしているが、特に意思の疎通が困難な方に対しては、職員の都合になっている時もみられる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、お便りでご家族へ近況報告し、ご本人様が少しでも安心して生活する事ができる様、共に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に添える様にしているが十分とは言えない。現在の状況に応じた対応が必要と思われる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況にあわせ、入居者様が孤立しない様、また、気の合う入居者様同士が良好な関係を築ける様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、連絡を取り、必要に応じて対応できるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のニーズを把握できる様、スタッフ間で共有しなるべく希望にそえる様にしているが十分とは言えず。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経過や生活歴の把握に努めているが、十分とは言えず。ご本人やご家族に聞き取りし把握に努め、スタッフで共有し、ケアにつなげたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・ユニット会議・ミニカンファレンス等で現状を把握し、共有できる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議やミニカンファレンスで課題の検討を行い、介護計画のモニタリング、新たな介護計画を作成している。意見の活性化があれば尚良いと思う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入しているが、職員によりバラつきがある。十分に情報を共有できているとは言えず。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報を収集し、出来る限りニーズに対応できる様努めているが十分ではない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を十分に把握できていない。把握し活用できるよう努めたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、及び、ご家族様の希望を尊重し、適切な医療が受けられる様支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師は不在であるが、訪問看護師や外来看護師に状態を伝え、適切な医療が受けられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院のMSWや医師・看護師と情報交換し、ご本人様が安心して入院できるよう、また、早期に退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期には、ご家族等に十分説明をし、ご家族・事業所・医療関係者と方針を共有出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当で、初期対応について、マニュアルを作成したり、定期的に訓練を行っているが、実践力は未知数である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を今年度は現段階で実施できていない。町内会との連携は少しずつ相談している段階である。対策の構築が急務である。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、プライバシーの保護に努めているが、十分ではない時もある。言葉かけやその時々に合わせて距離感等にも気を配り、安心して生活して頂ける様心掛けたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できなくなってきた入居者様には職員が決定してしまっている。少しでも意思をくみとる事、感じる事ができるよう関わっていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	現実的にはすべてに沿っているとは言えないが努力はしている。特に職員数が少ない日は希望に添えない時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望がある時に好きな洋服類を買いに行ける機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様同士の関係を配慮しながら後片付けをして頂いている。入居者様の状態に合わせ、食事準備も行えるよう支援したい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態や摂取状態を観察し、最適な食事量や水分量を確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に合わせ舌ブラシや口腔ケアスポンジ、洗口液を使用し、出来る範囲内で自力出来るよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しスタッフ間で共有している。また、声掛け、一部介助等、一人ひとりの状態に合わせて対応している。自立に向けた支援については、実践できていない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事等は考慮しているがADLの低下の為、歩行困難の方が増えており、適度な運動等を促し予防に努める事が出来なくなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	職員の都合で時間帯等決まってしまう、個々に添った支援が十分にできていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活習慣に状況に合わせて休息時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を理解出来るよう、内服薬一覧を作成している。内服薬の変更に伴う症状の変化は記録に記入しスタッフで共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に応じて支援しているが、常に対応出来ず十分とは言えない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って外出支援をしているが、職員数が少ない時等が多く、十分支援出来ているとは言えず。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に預っており、ご本人が使用する機会は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡を取る事が出来る方には、可能な限りやりとり出来るよう、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる様配慮している。また、不快なニオイ等が無いように共用空間を清掃し清潔を保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて、それぞれの好きな場所で過ごして頂ける様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく使い慣れた物を持ち込んで頂く事により、環境の変化を軽減でき、居心地良く過ごせる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい表示にしている箇所もあるが、十分とは言えない。今後も自立支援に向け、その都度、検討していきたい(補助具や手すりなどについても)。		

目標達成計画

事業所名 グループホームゆうあい
作成日: 平成30年12月04日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	6	身体拘束に関する現状と問題点についての把握が十分にできていない	職員間で、身体拘束に関しての問題点、対応等について共有できる。	包括職員を招いた勉強会を開催。研修会に参加し身体拘束防止について学んでいく	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。
注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。